

## 11 広報関係

### (1) プレスリリース (令和2年度)

組織名 年月日	プレスリリースの内容
森林総合 研究所林 木育種セ ンター  R3. 2. 18	<p>タイトル：名木の後継樹、各地に里帰りー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 森林総合研究所林木育種センターでは、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、これらを品種開発等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行110番」を行っています。今回の里帰りは、このサービスを利用して増殖を要請された茨城県龍ヶ崎市の県指定天然記念物「龍ヶ崎のシダレザクラ」及び静岡県湖西市の市指定天然記念物「諏訪神社のケヤキ」の後継樹の苗木です。</p>
関西 育種場  R3. 1. 21	<p>タイトル：地域の人々に親しまれる「不動寺のヤマザクラ」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回里帰りする後継樹の親木は、三重県名張市長瀬地域の人々に親しまれる「不動寺のヤマザクラ」です。親木のヤマザクラは、墓地内に生育し推定樹齢100年以上で樹高8.0m 幹周206cmで八重咲、少し枝垂れ4月中下旬に開花します。石碑等の保護から昭和中期と枝枯れにより数年前に一部伐採しました。近年は樹形、樹勢の衰弱が見られ枯損の危機を危惧していました。地域の貴重な財産を後世に伝えたいと常に考えていた不動寺の住職が、三重県の巨樹・古木調査に訪れた三重県樹木医会の広瀬樹木医に相談し、後継樹の増殖を検討することとなりました。令和元年8月に不動寺より関西育種場へ林木遺伝子銀行110番の申請があり、令和2年2月に親木から枝(徳木)を採取し、当育種場でつぎ木増殖を試みました。無事増殖に成功し、野外に植栽しても生育できる見込みがたった5本を令和3年2月9日に里帰りさせることとなりました。</p>
関西 育種場  R3. 3. 1	<p>タイトル：京都市指定名勝「雑華院庭園」内のサワラの後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回里帰りする後継樹の親木は、京都市指定名勝の「雑華院庭園」に生えるサワラです。このサワラは大きく枝を張って、名勝庭園の景観に趣を一段と添えているだけでなく、『都林泉名勝図会』にも描かれていることから、江戸時代の作庭当初から存在していたことが分かる大変貴重な古木ですが、残念なことに長年の腐食による幹の空洞化、近年の台風による折損により樹勢が衰え、倒壊の危機に瀕しています。そのため雑華院より平成30年11月に関西育種場に林木遺伝子銀行110番の申請があり、親木から枝(徳木)を採取し、当育種場でつぎ木とさし木による増殖を試みました。無事増殖に成功し、野外に植栽しても生育できる見込みがたった苗木(つぎ木3本、さし木5本)を令和3年3月16日に里帰りさせることとなりました。</p>
関西 育種場  R3. 3. 3	<p>タイトル：兵庫県指定文化財「磐座神社のコヤスノギ叢林」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー</p> <p>林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) 今回里帰りする後継樹の親木は、兵庫県相生市にある兵庫県指定文化財「磐座神社のコヤスノギ叢林」にある3本です。コヤスノギはトベラ科の常緑低木で、わが国では兵庫県西播磨地方南部と岡山県東部にしか生息していない大変希少な植物です。磐座神社の社叢はコヤスノギが比較的旺盛に繁茂していたため、昭和59年に兵庫県指定文化財となりました。しかし、周辺の高木伐採による急激な日照環境の変化により、平成28年には6本、現在は3本にまで減少しました。地元では平成28年にコヤスノギ保全会を立ち上げ保全活動を行ってきましたが、希少な遺伝資源が無くなることを危惧した磐座神社小林宮司が相生市教育委員会に協議のうえ、関西育種場に林木遺伝子銀行110番の利用申請を行いました。そこで、関西育種場が親木から枝(徳木)を採取し、さし木増殖を試みました。無事増殖に成功し、野外に植栽しても生育できる見込みがたった3本を令和3年3月24日に里帰りさせることとなりました。</p>
九州 育種場  R2. 8. 25	<p>タイトル：土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる手法を開発(特許取得)</p> <p>スギのさし穂を土にささず、空中に立てて、ミスト散水し発根させる手法の開発についてプレスリリースした。</p> <p>(要旨) これまでのスギさし木コンテナ苗生産では、さし穂を土にさしつけて発根させた後にコンテナへ移植して生産するという手法が一般的でしたが、さしつけ用の土の準備や発根した穂の掘り取り作業などの重筋作業を伴うことや発根部が地中であるため土から掘り取った後でなければ発根の有無や程度が分からず、移植のタイミングの判断が難しいなどの課題がありました。森林総合研究所林木育種センター九州育種場と九州大学は、さし穂全体を空气中に露出するように立て、一定の条件で定期的なミスト散水することによって、安定して発根させる手法を開発しました。本手法を活用することにより、さしつけ用の土の準備や発根したさし穂の掘り取り作業がなくなるとともに、発根をリアルタイムに目視で確認できるため、さし木コンテナ苗生産の効率化が期待されます。現在、イノベーション創出強化研究推進事業において、推進事業の共同研究機関と共に本手法の実用化研究を進めています。この研究の成果に基づき、「新たなさし木発根技術によるスギさし木コンテナ苗生産マニュアル」を作成し、今年12月頃に公開する予定としており、優良種苗の更なる普及に貢献してまいります。</p>

組織名 年月日	プレスリリースの内容
九州 育種場 R3. 2. 8	<p>タイトル：土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる手法「エアざし」によるスギさし木コンテナ苗生産マニュアルを作成</p> <p>「エアざし」によるスギさし木コンテナ苗生産マニュアルについてプレスリリースした。</p> <p>(要旨)            森林総合研究所林木育種センター九州育種場、九州大学、宮崎大学、大分県農林水産研究指導センター、宮崎県林業技術センター、鹿児島県森林技術総合センター、(株)長倉樹苗園、(株)林田樹苗農園はコンソーシアムを形成し、イノベーション創出強化研究推進事業【開発研究ステージ】研究課題名「用土を用いない空中さし木法による、コスト3割削減で2倍の生産量を実現するスギさし木苗生産方法の確立」に取り組み、土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる空中さし木法（通称：エアざし）を活用した、新たなスギさし木コンテナ苗生産手法をわかりやすく解説したマニュアルを共同で作成。本マニュアルでは、苗木生産事業者等が特許技術（特許番号：第6709449号 発明の名称：さし穂の発根装置 特許取得日：令和2年5月27日、令和2年8月25日付プレスリリース「土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる手法を開発（特許取得）」を活用して、実際にスギさし木コンテナ苗を生産していただけるようにまとめました。推進事業で明らかにしたスギさし穂の発根システムの構築方法やさし穂が発根するまでの管理手法、発根後のさし穂をコンテナへ移植するための適期判定、移植後のコンテナ苗の管理方法等を示しており、新たにスギさし木コンテナ苗生産を始められようとする方も含めて、「エアざし」を活用したスギさし木コンテナ苗生産の事業化に役立つ内容となっています。マニュアルは、九州育種場のHPからダウンロードできます。</p>